

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

**Defective images within this document are accurate representation of
The original documents submitted by the applicant.**

Defects in the images may include (but are not limited to):

- **BLACK BORDERS**
- **TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- **FADED TEXT**
- **ILLEGIBLE TEXT**
- **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- **COLORED PHOTOS**
- **BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS**
- **GRAY SCALE DOCUMENTS**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



(19)

(11) Publication number: 11134419 A

Generated Document.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: 09301041

(51) Intl. Cl.: G06F 19/00

(22) Application date: 31.10.97

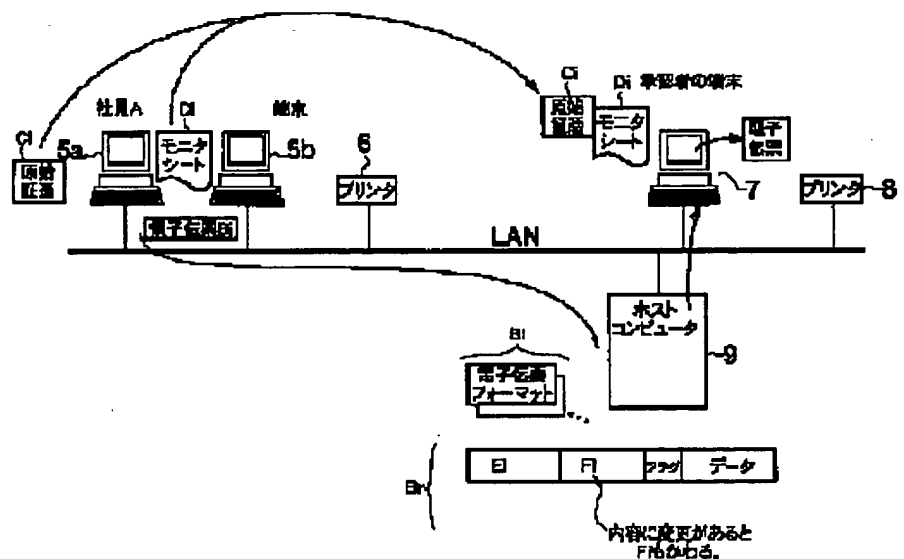
(30) Priority:		(71) Applicant: BUSINESS BRAIN SHOWA OTA INC
(43) Date of application publication:	21.05.99	(72) Inventor: KIMURA YUKIHIRO
(84) Designated contracting states:		(74) Representative:

(54) ACCOUNTING SYSTEM WITH FUNCTION FOR MANAGING NUMBER OF TIMES OF CORRECTION OF ELECTRONIC SLIP

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To significantly reduce a check work by automatically judging from the number of times of correction whether or not the content of an electronic slip is the same as that of a transmitted printed sheet, and letting an approving side to know the result for allowing the approving side to automatically know the result only by inputting the number of times of correction of the printed sheet without visually checking whether or not the content of the printed sheet is made coincident with the content of the electronic ship.

SOLUTION: Terminals 5a, 5b,... a terminal 7 are connected through a private line with a host computer 9, and the host computer 9 extracts an electronic slip br of an electric slip file corresponding to a slip number Ei of an electronic slip from the terminal, and compares the content of the electronic slip Br with the content of an electronic slip Br from the terminal, and when correction is necessitated, the host computer 9 updates the version NO of the electronic slip from



version NO of the electronic slip input from the terminal, and stores it in the electronic slip file. Then, the version number of a monitor sheet Di is inputted, and when this version number is made coincident with the version number of this electronic slip, and accounting processing is executed.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

ACCOUNTING SYSTEM WITH FUNCTION FOR MANAGING NUMBER OF TIMES OF CORRECTION OF ELECTRONIC SLIP

Patent Number: JP11134419
Publication date: 1999-05-21
Inventor(s): KIMURA YUKIHIRO
Applicant(s): BUSINESS BRAIN SHOWA OTA INC
Requested Patent: JP11134419
Application Number: JP19970301041 19971031
Priority Number(s):
IPC Classification: G06F19/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To significantly reduce a check work by automatically judging from the number of times of correction whether or not the content of an electronic slip is the same as that of a transmitted printed sheet, and letting an approving side to know the result for allowing the approving side to automatically know the result only by inputting the number of times of correction of the printed sheet without visually checking whether or not the content of the printed sheet is made coincident with the content of the electronic slip.

SOLUTION: Terminals 5a, 5b,... a terminal 7 are connected through a private line with a host computer 9, and the host computer 9 extracts an electronic slip br of an electric slip file corresponding to a slip number Ei of an electronic slip from the terminal, and compares the content of the electronic slip Br with the content of an electronic slip Br from the terminal, and when correction is necessitated, the host computer 9 updates the version NO of the electronic slip from the terminal, and stores it in the electronic slip file. Then, the version number of a monitor sheet Di is inputted, and when this version number is made coincident with the version number of this electronic slip, and accounting processing is executed.

Data supplied from the esp@cenet database - 12

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-134419

(43) 公開日 平成11年(1999)5月21日

(51) Int. Cl.⁶

G 0 6 F 19/00

識別記号

P 1

G 0 6 F 15/22

N

Z

15/30

3 1 0

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平9-301041

(22) 出願日 平成9年(1997)10月31日

(71) 出願人 397042229

株式会社ビジネスブレイン太田昭和
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号

(72) 発明者 木村 孝弘

東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日
比谷国際ビル14階 株式会社ビジネスブレ
イン太田昭和内

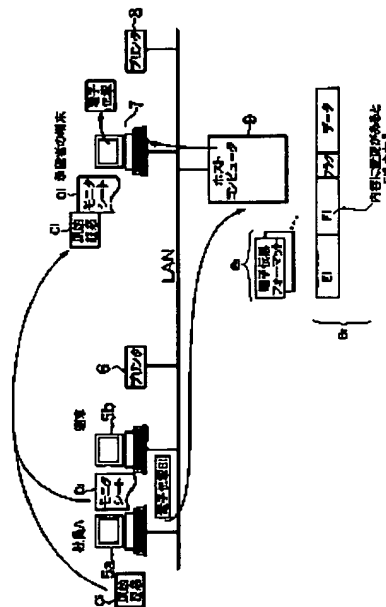
(74) 代理人 弁理士 三好 秀和 (外 8 名)

(54) 【発明の名称】 電子伝票修正回数管理機能付き会計システム

(57) 【要約】

【課題】 電子伝票の印刷シートに承認印を押して会計処理に応じる会計システムの場合、承認済みの印刷シートの内容と電子伝票（電子ファイル）の内容の一致を保証する方法がなかった。

【解決手段】 端末5 a、5 b、…端末7とホストコンピュータ9とを専用回線で結び、ホストコンピュータ9が、端末からの電子伝票の伝票番号E iに対応する電子伝票ファイル13の電子伝票b rを引当て、この電子伝票b rの内容と、端末からの電子伝票B rの内容と比較し、修正があるときは、その端末からの電子伝票のバージョンNOを更新して電子伝票ファイル13に記憶する。そして、モニタシートD iのバージョン番号を入力させ、このバージョン番号とその電子伝票のバージョン番号とが一致したとき会計処理に応じさせる。



(2)

特開平11-134419

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の端末とホストコンピュータとを専用回線で結び、前記複数の端末の内いずれかの端末が承認者側の端末となり、この承認者側の端末において、前記端末側から送付される電子伝票の印刷シートの修正回数と、承認者側の端末に入力した前記電子伝票の修正回数とが一致し、かつ前記印刷シートに当該システムの組織規定に基づく所定人の押印が全て揃っている場合は、前記印刷シートに承認印を押して会計処理に応じる会計システムであって、

前記ホストコンピュータは、

少なくとも、前記電子伝票の伝票番号と、この電子伝票の修正回数と、電子伝票の内容と、承認のフラグとがレコード単位で記憶される電子伝票ファイルと、前記複数の端末からのアクセスを受け、該アクセスがあった端末が要望する電子伝票を前記電子伝票ファイルから検索して前記アクセスがあった端末に送信する電子伝票検索処理部と、前記端末からの電子伝票の伝票番号を読み、該伝票番号の前記レコードを前記電子伝票ファイルから引当て、このレコードの電子伝票の内容と、前記端末からの電子伝票の内容とが相違している場合は、前記端末からの電子伝票の伝票番号に対応する前記レコードの修正回数を更新する電子伝票修正管理処理部とを有することを特徴とする電子伝票修正回数管理機能付き会計システム、

【請求項2】 前記電子伝票修正管理処理部は、

前記レコードの修正回数を更新に伴って、そのレコードの電子伝票の内容を前記端末からの電子伝票の内容に更新することを特徴とする請求項1記載の電子伝票修正回数管理機能付き会計システム、

【請求項3】 前記ホストコンピュータは、

前記端末からのアクセスが前記承認者の端末からのアクセスの場合は、前記承認者が要望する前記レコードを前記電子伝票ファイルから引当て、このレコードの内前記伝票番号と年月日及び時刻とを検認受け情報として、その承認者の端末に送出する手段と、

前記検認受け情報を表示したとき、その情報の修正回数を入力させ、該修正回数とその情報を有しているレコードの修正回数に一致しているかどうかを判断する手段と、

前記修正回数の一致と判断したときは、そのレコードに前記承認のフラグを立てる手段と、

前記レコードに承認のフラグが立てられると、前記承認者の端末に修正回数の一致を知らせる手段とからなる承認受付処理部とを有することを特徴とする請求項1又は2記載の電子伝票修正回数管理機能付き会計システム、

【請求項4】 前記複数の端末はバーコードリーダを備え、

前記電子伝票検索処理部は、

前記複数の端末からのアクセスを受け、この端末の

2

バーコードリーダのバイナリコードを解読し、該バイナリコードの前記レコードを前記電子伝票ファイルから検索して前記アクセスがあった端末に送信する手段を有することを特徴とする請求項1、2又は3記載の電子伝票修正回数管理機能付き会計システム、

【請求項5】 前記電子伝票修正管理処理部は、

前記端末からの電子伝票の内容と、この電子伝票の伝票番号の前記レコードの内容と比較したとき、前記端末からの電子伝票の内容に修正がないときは、その電子伝票の伝票番号の前記レコードの修正回数の更新は中止することを特徴とする請求項1、2、3又は4記載の電子伝票修正回数管理機能付き会計システム、

【請求項6】 前記電子伝票修正管理処理部は、

前記電子伝票ファイルに、前記レコードに関連づけて、その電子伝票の修正回数毎に、修正者と、端末IDと、プログラムIDと、更新年月日及び時刻とを修正履歴としてレコード単位で記憶することを特徴とする請求項1、2、3、4又は5記載の電子伝票修正回数管理機能付き会計システム、

20 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、承認する電子伝票が修正されているかどうかを容易に判断でき、かつ修正回数も容易に把握できる伝票修正回数管理機能付き会計システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の会計システムは、バッチ処理等によるEDP会計システムが主流である。この会計システムは、各部門で起票された伝票（以下入力原票という）が経理部門に集められ、検印後に一括してコンピュータに入力される。そして、入力されたデータに基づき、コンピュータが集計し、各種帳票及び財務諸表を出力する。

【0003】従って、チェックのポイントは伝票データが正しく入力されていることを確認することである。また、伝票を電算部門へ送達中に紛失しないようにすることである。

【0004】このようなことから近年はペーパーレスの会計システムが構築されている。例えば、図11に示すような、伝票の処理を行うホストコンピュータ1が通信ケーブルを通じて端末装置3a～端末装置3nと接続された会計システムは、端末装置3が伝票データをホストコンピュータ1に送ると、その内容がホストコンピュータ1でチェックされ、問題がない場合には電子台帳部に格納される。

【0005】そして、所定の時点で承認者の端末装置3にその内容が送出されて承認が行われる。承認者は、それぞれのIDを有しており、承認作業を行う場合は、IDを入力させることで不正に承認が行われることを防止していた。また、経理部門では電子伝票に承認者の承認

50

(3)

特開平11-134419

3

4

がある場合は経理承認していた。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のような従来の方式における承認はIDの入力によって可能であるので、IDがシステムの利用者に漏れると、不正に承認が行われることになる。

【0007】ところが、経理部門では電子伝票に、経理的内容がチェックされて所定の承認者の承認がある場合は、その電子伝票を経理承認するので、承認者のIDが漏れた場合は、不正に経理承認されてしまうという課題があった。

【0008】また、電子伝票の印刷シートに承認印を押して会計処理に応じる会計システムの場合、承認済みの印刷シートの内容と電子伝票（電子ファイル）の内容の一致を保証する方法がなかった。例えば、原始証憑入力し印刷シートを出力した後、入力した内容を修正（故意の場合もあり）した様な場合、修正が有ることを知らずに電子伝票を承認してしまう様な状況が発生していた。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明は、複数の端末とホストコンピュータとを専用回線で結び、前記複数の端末の内いずれかの端末が承認者側の端末となり、この承認者側の端末において、前記端末側から送付される電子伝票の印刷シートの修正回数と、承認者側の端末に入力した前記電子伝票の修正回数とが一致し、かつ前記印刷シートに当該システムの組織規定に基づく所定人の押印が全て揃っている場合は、前記印刷シートに承認印を押して会計処理に応じる会計システムである。

【0010】少なくとも、前記電子伝票の伝票番号と、この電子伝票の修正回数と、電子伝票の内容と、承認のフラグとがレコード単位で記憶される電子伝票ファイルを用意する。

【0011】そして、電子伝票検索処理部が複数の端末からのアクセスを受け、該アクセスがあった端末が要望する電子伝票を前記電子伝票ファイルから検索して前記アクセスがあった端末に送信する。

【0012】電子伝票修正管理処理部が端末からの電子伝票の伝票番号を読み、該伝票番号の前記レコードを前記電子伝票ファイルから引当て、このレコードの電子伝票の内容と、端末からの電子伝票の内容とが相違している場合は、端末からの電子伝票の伝票番号に対応するレコードの修正回数を更新する。

【0013】

【発明の実施の形態】図1は本発明の実施の形態1のオンライン会計システムの概略構成図である。図1のオンライン会計システムは、専用回線（LAN）に社員A1（i:1, 2, 3, ……）の端末5a, 5b, ……と、プリンタ6と、承認者の端末7と、プリンタ8と、ホストコンピュータ9とを接続している。また、前述のプリンタ6は社員A1側に設けられ、プリンタ8は承認者側

に設けられている。

【0014】社員A1は、端末5a, 5b, ……を操作して、ホストコンピュータ9より所望の電子伝票フォーマットB1（i:1, 2, ……）を画面に呼び出して表示させ、この画面上の電子伝票フォーマットB1に原始証憑C1の内容を入力し、プリンタ6を用いてプリントアウトする。このプリントアウトされたシートを電子伝票のモニタシートD1と称し、原始証憑C1と共に承認者に送付する。

10 【0015】前述の各端末には、電子伝票を表示する場合は、後述するバージョン番号が消去されて表示する機能が備えられ、印刷シートD1にバージョン番号を印字させるようにしている。

【0016】一方、ホストコンピュータ9は、電子伝票フォーマットB1を端末側に送信した後に、社員A, B, ……が端末5a, 5b, ……を操作して原始証憑C1の内容を電子伝票フォーマットB1に入力し終わると、伝票コードE1を端末に送出して表示させる。この端末側で表示される伝票を、電子伝票B1と称し、その内容K1を社員コードJ1、伝票番号等を対応させてホストコンピュータ9が記憶したものを電子伝票I1と称する。

【0017】次に、承認者は、社員側から送付されたモニタシートD1の内容とその原始証憑の内容とをチェックすると共に、図4の(a)に示すような検認条件入力画面より、検認条件（部門コード、入力日、伝票番号等）を入力して目的の電子伝票B1を表示させた後に、この電子伝票B1が示す所定欄にバージョンNOF1を入力する。

30 【0018】そして、この画面上にバージョンの一致を知らせるメッセージが表示され、かつ前述のチェックで内容が正しいと判断したときは、モニタシートD1に承認印を押して会計処理に応じさせる。

【0019】＜ホストコンピュータの詳細構成＞図2はホストコンピュータ9の構成図である。前述のホストコンピュータ9は、図2に示す構成を少なくとも備えている。

【0020】初めにファイルの構成を説明する。ホストコンピュータ9は、図2に示すように、複数枚の電子伝票フォーマットB1が記憶された伝票フォーマットファイル11と、社員コードと部門、氏名とからなる社員情報P1が複数記憶された社員情報ファイル12と、端末によって作成された電子伝票B1が複数記憶された電子伝票ファイル13とを備えている。この電子伝票ファイル13については図を用いて後述する。

【0021】また、ホストコンピュータ9は、仮電子伝票作成手段15と第2の電子伝票検索手段16とからなる電子伝票検索処理部17を備えている。また、電子伝票読込手段19と第1の電子伝票検索手段20と修正判定手段21と伝票番号生成手段22とバージョン番号生成手段23とからなる修正回数管理処理部26と、承認

(4)

特開平11-134419

5

受付処理部28とを備えている。

【0022】電子伝票ファイル13は、図3に示すように、伝票コード（伝票番号ともいう）E1と、バージョンNOF1と、電子伝票の内容等とからなるレコードの電子伝票brが記憶される。

【0023】また、この電子伝票ファイル13における電子伝票brは、図3に示すように、バージョンNOが変わると、そのバージョンNO毎に、修正者（ユーザID）、端末ID、電子伝票のプログラムID、更新年月日及び時刻とからなるレコード（以下履歴レコードという）が電子伝票の修正履歴として記憶される。

【0024】電子伝票検索処理部17の仮電子伝票作成手段15は、LANを介して端末から所望の伝票の種類Miと社員コードJ1（ID、パスワード、社員番号等）とが入力すると、その社員コードJ1からその伝票Miを用いることができる社員かどうかを確認し、伝票Miを用いることができる社員の場合は、その伝票のフォーマットBiを伝票フォーマットファイル11から読み出して、アクセスがあった社員の端末に渡す。

【0025】このとき、伝票種類Miの社員の社員情報Piを引当て、この社員情報Piの中から所定の情報を伝票フォーマットBiに書き込んで送信する。この電子伝票を仮電子伝票mpと称する。

【0026】電子伝票検索処理部17の第2の電子伝票検索手段16は、端末（社員、承認者）から伝票コードEiが入力すると、この伝票Eiの電子伝票brのレコードを電子伝票ファイル13から引当て、引き当てたレコードを渡す。

【0027】このとき、電子伝票brの表示の場合は、その端末に渡されるレコードからバージョンNOF1を削除したレコードにして送出し、その端末にバージョンNOF1が表示されないようにする。また、モニタシートDiの印字の場合には、その端末に渡したレコードのバージョンNOF1を伝票コードEiの後に印字されるような形式で送出する。

【0028】また、社員コードJ1（ID、パスワード、社員番号等）からその伝票brを使用できる社員かどうかを判定している。

【0029】修正回数管理処理部26の電子伝票読込手段19は、端末側の電子伝票Brをホスト側の内部に取り込み、後述する修正判定手段21によってこの電子伝票Brの内容（伝票データ）が修正されていないと判定された場合、又は第1の電子伝票検索手段20からその電子伝票Brの電子伝票brが電子伝票ファイル13に存在しないと判定された場合は、その内容をそのまま電子伝票ファイル13に記憶すると共に、その記憶アドレスを伝票番号生成手段22、バージョン番号生成手段23及び第1の電子伝票検索手段20に知らせる。

【0030】さらに、後述する修正判定手段21により、その電子伝票brが修正されていると判定された場

6

合は、そのバージョンNO毎に、修正者（ユーザID）、端末ID、電子伝票のプログラムID、更新年月日及び時刻とからなる履歴レコードを電子伝票ファイル13に記憶する。

【0031】第1の電子伝票検索手段20は、電子伝票読込手段19が端末側の電子伝票Brを読み込むと、この伝票に伝票コードE1があるかどうかを判断し、伝票コードがない場合は、電子伝票Brの電子伝票brが電子伝票ファイル13に存在しないと判定して伝票番号生成手段22及びバージョン番号生成手段23を起動させる。

【0032】また、電子伝票Brに伝票コードEiが存在する場合は、この伝票コードEiの電子伝票ファイル13のレコードの伝票データを引き当てて修正判定手段21に知らせる。

【0033】修正判定手段21は、第1の電子伝票検索手段20によって電子伝票ファイル13から送出された電子伝票brと、電子伝票読込手段19が読み込んだ電子伝票Brの内容と比較し、修正があるかどうかを判断し、その判断結果を電子伝票読込手段19及びバージョン番号生成手段23に知らせる。修正がある場合は電子伝票brのレコードのアドレスも合わせて知らせる。

【0034】伝票番号生成手段22は、第1の電子伝票検索手段20からの起動に伴って、所定桁の伝票コードEiを生成して端末側に送出すると共に、電子伝票読込手段19からの電子伝票Brのアドレスのレコードを引当て、このレコードに伝票コードEiを書き込む。

【0035】バージョン番号生成手段23は、第1の電子伝票検索手段20からの起動指示に伴って、例えば2桁のバージョン番号Fi（例えば01）を生成し、このバージョン番号を、電子伝票読込手段19からの電子伝票Brのアドレスのレコードに書き込む。

【0036】また、修正判定手段21から電子伝票Brが修正されていることが知らせられると、その電子伝票brのレコードのバージョンNOF1に対して「1」を加算したバージョンNOF1に更新する。

【0037】承認受付処理部28は、承認者の端末7からのアクセスの場合は、伝票コードEiとバージョン番号Fiとを入力させて、その伝票コードのレコードを電子伝票ファイル13から引当て、このレコードのバージョン番号と入力したバージョン番号とが一致したとき、承認のフラグを電子伝票ファイル13のレコードに立てると共に、バージョン番号の一致をその承認者側の端末に知らせる。前述のバージョン番号は端末5側から廻される印刷シートのバージョン番号である。

【0038】また、承認受付処理部28は、図4の（a）に示すように、検認条件入力画面を承認者側の端末7に表示させ、この画面より、検認条件（部門コード、入力日、伝票番号等）を入力させて、図4の（b）の検認指示入力画面にて複数の電子伝票番号と、計上

(5)

特開平11-134419

7

8

日、入金日、検認欄V1等（総称して検認受け情報という）を表示して、この検認欄V1にバージョン番号を入力させてもよい。

【0039】上記のように構成された実施の形態1のオンライン会計システムについて図5のフローチャートを用いて以下に動作を説明する。

【0040】本実施の形態では、ホストコンピュータ9の電子伝票ファイル13には既にバージョンNOが付与された電子伝票brが記憶されている。

【0041】このような状態のとき、社員A1が何らかの理由で電子伝票brを修正する場合は、端末5aを操作して、社員番号J1と伝票番号E1とを入力して、ホストコンピュータ9より所望の電子伝票Brを画面に呼び出して表示させる。この電子伝票Brには、伝票番号E1は表示されるがバージョン番号は表示されない。

【0042】そして、社員Aが画面の電子伝票Brを修正してホスト側に送信させると、この電子伝票Brが修正回数管理処理部26の電子伝票読込手段19により取り込まれる（S1）。

【0043】次に、第1の電子伝票検索手段20が電子伝票Brの伝票コードE1が書き込まれている領域を読み（S2）、この電子伝票Brに伝票コードE1があるかどうかを判断する（S3）。

【0044】ステップS3で、伝票コードE1がある場合は、その伝票コードE1の電子伝票brのレコードを電子伝票ファイル13から引き当て（S4）、その電子伝票brのレコードを修正判定手段21に渡す。

【0045】修正判定手段21は、第1の電子伝票検索手段20によって電子伝票ファイル13から送出された電子伝票brと、電子伝票読込手段19が読み込んだ電子伝票Brの内容と比較し（S5）、修正があるかどうかを判断する（S6）。

【0046】ステップS6において、修正があると判定したときは、バージョン番号生成手段23が電子伝票ファイル13のレコードのバージョンNOF1に「1」加算した値に更新する（S7）。このとき、この更新したバージョンNOと、修正者（ユーザID）と、端末IDと、プログラムIDと、更新年月日及び時刻とを履歴レコードとして記憶する。

【0047】すなわち、社員Aが先に作成した電子伝票を修正した場合は、その電子伝票のバージョン番号が自動的に更新される。このため、承認者側ではモニタシートDiのバージョンNOと画面の社員Aの電子伝票のバージョンNOとから修正があったかどうかを直ぐに判断できる。このため、不正の介在を抑制できる。

【0048】また、ステップS3において伝票番号E1が電子伝票Brに存在しない場合は、伝票番号生成手段22が所定桁の伝票番号E1を電子伝票brのレコードに書き込む（S8）。そして、バージョン番号生成手段23がバージョン番号（01）を生成して書き込む（S

9）。

【0049】さらに、ステップS6において、修正がないと判定したときは、バージョンの更新を行わないで本処理を終了する。

【0050】このようにして例えば図6に示すモニタシートDiを得たとすれば、このモニタシートDiは、原始証憑C1と共に、本システムの組織規定に従った所定人に送られていく。図6に示すようモニタシートDiの入力部所には、所定人（請求人本人、上司等）の押印がある。

【0051】そして、前述のモニタシートDiと原始証憑C1とが承認側に渡されると、承認側では以下に説明する処理を行う。本説明では、年月日の入力については省略する。図7は電子伝票検索処理部17及び承認受付処理部28の動作を説明するフローチャートである。

【0052】承認側は端末7からモニタシートDiの伝票コードE1を入力すると、ホストコンピュータ9の電子伝票検索処理部17の第2の電子伝票検索手段16は、この伝票コードE1のレコードである電子伝票brを電子伝票ファイル13から検索して表示させる（S20）。

【0053】次に、承認受付処理部28はこの電子伝票Brのバージョン番号Fiを入力させるメッセージを表示させる（S21）。

【0054】次に、承認受付処理部28は、バージョン番号Fiが入力したかどうかを判断する（S22）。ステップS22において、バージョン番号Fiが入力したときは、そのバージョン番号Fiと電子伝票ファイル13のレコードのバージョン番号F1と比較し（S23）、両方のバージョン番号が一致したかどうかを判断する（S24）。

ステップS24において、両方のバージョン番号が一致したときは、電子伝票ファイル13のレコードに承認のフラグを立てる（S25）と共に、バージョンの一致を承認者側の端末に知らせる（S26）。

【0055】また、ステップS24において、両方のバージョンが一致しない場合は、バージョンの不一致を承認者側に知らせる（S27）。

【0056】承認者側はバージョンの一致が知らせられると、原始証憑C1とモニタシートDiの内容をチェックし、適切な内容の場合は所定の承認欄に承認印を押して会計処理に応じさせる。また、バージョンが不一致の場合は、モニタシートDiと原始証憑C1とを、社員A側に差し戻す。

【0057】また、承認側で表示させる電子伝票は図3に示すように、年月日～年月日の範囲の電子伝票番号を複数表示して、これらの電子伝票番号の検認欄にバージョンを入力させてもよい。

【0058】従って、承認側では、原始証憑とモニタシートとを詳細にチェックしなくとも修正の有無がバージ

(6)

特開平11-134419

9

10

ョン番号の入力だけで自動的に判定されるので、承認側の作業を大幅に短縮できる。

【0059】＜実施の形態2＞図8は実施の形態2のオンライン会計システムの概略構成図である。図8に示すように、専用回線（LAN）に社員A_i（*i*：1、2、3、……）の端末5a、5b、……には、それぞれバーコードリーダ30_i（*i*：1、2、3、……）を接続している。また、承認者の端末7にはバーコードリーダ32が接続されている。また、モニタシートD_iには図9に示すように、伝票コードE_iに対応するバーコードが

印字されている。

【0060】このため、承認者が社員側から送付されたモニタシートD_iのバーコードをバーコードリーダ32を用いて入力することが可能となる。

【0061】従って、例えば複数の電子伝票を一度に承認する場合は、モニタシートD_i毎に伝票コードE_iを入力しなくとも、バーコードリーダ32で複数のモニタシートD_iのバーコードをスキャニングさせることで、複数の電子伝票b_rを容易に読み出し、各伝票コードE_iのバージョン番号を入力させるだけで、自動的にモニタシートと電子伝票の内容が相違しているかどうかを一度に確認できることになる。

【0062】＜実施の形態3＞一般的に会社、団体等においては、伝票の承認は、担当上司がその伝票に承認して経理部門に廻される。このとき、内容によっては担当上司が内訳を直接変更する必要がある場合もある。

【0063】また、電子伝票を作成した入力者も入力ミス等があった場合は、電子伝票を後日変更する必要がある。

【0064】ところが、従来の方式では、内容を変更したとしても、その電子伝票に承認があれば経理承認されてしまい、後日何らかの問題が発生した場合には、その電子伝票からは誰が何時、どこをどのように変更したかという履歴が分からない。このような場合には、図3で説明した履歴レコードというのが有効である。

【0065】例えば、図10に示すように、専用回線（LAN）に社員A_i（*i*：1、2、3、……）の端末5a、5b、……と、プリンタ6と、社員A_iの上司端末35と、上司用のプリンタ36と、経理部の承認者の端末37と、プリンタ38と、ホストコンピュータ43とを接続した場合は、ホストコンピュータ43は以下に説明する処理を行う。

【0066】また、前述の上司端末35にはバーコードリーダ40が設けられ、経理部の承認者の端末37にはバーコードリーダ41が設けられている。

【0067】このようなオンライン会計システムは、社員A_iは、端末5a、5b、……を操作して、ホストコンピュータ43より所望の電子伝票フォーマットB_i（*i*：1、2、…）を画面に呼び出して表示させ、この画面上の電子伝票フォーマットB_iに、原始証憑C_iの

内容を入力してプリンタ6を用いてプリントアウトする。このプリントアウトされたモニタシートD_iと、原始証憑C_iとを一緒にして上司側に渡す。例えば、図9に示すバーコードと伝票コードとが印字されたモニタシートD_iがプリントアウトされて渡される。

【0068】上司側では、渡されたモニタシートD_iと原始証憑C_iとをチェックし、内容に不備がなければモニタシートD_iに上司承認印を押して経理部に廻す。また、内容に不備があれば、社員A_iに差し戻す。

【0069】また、上司側では、渡されたモニタシートD_iの伝票コードE_iをキーボード又はバーコードリーダ40を用いて入力し、モニタシートD_iに対応する電子伝票b_rをホストコンピュータ43から転送させて画面に表示させ、モニタシートD_iのバージョン番号を入力して修正の有無を自動判定させてもよい。この場合においても、バージョン番号が一致しない場合は上司はモニタシートD_iと原始証憑C_iとを差し戻し、一致している場合は上司承認印をモニタシートD_iに押して経理部門に廻す。

【0070】一方、このように上司側が電子伝票B_rを表示した場合に、何らかの修正を行った場合は、ホストコンピュータ43は、上記説明のように、端末35の電子伝票B_rの内容と、電子伝票ファイル13の電子伝票b_rの内容とを比較し、修正があるかどうかを判断する。

【0071】修正があると判断した場合は、その電子伝票b_rを引当て、この電子伝票b_rのバージョン番号F_iを更新すると共に、上記の図3に示すように、バージョンNOが変わると、そのバージョンNO毎に、更新年月日、時刻と、社員コードJ_iと、端末IDとからなる履歴レコードを電子伝票の修正履歴として記憶する。

【0072】従って、後日何らかの問題が発生した場合には、その電子伝票ファイル44の履歴レコードの情報に基づいて解析を行うと、誰が何時、どこをどのように変更したかという履歴が分かる。

【0073】なお、上記経理部を本社としてホストコンピュータを配置し、このホストコンピュータと支社とを専用回線で結んで、それぞれの専用回線を通信制御装置（図示せず）によって制御するオンライン会計システムとし、支社側から本社のホストコンピュータにアクセスして電子伝票を読み出し、本社側でバージョンNOで電子伝票を管理して経理承認を与えるシステムにしてもよい。

【0074】また、上記実施の形態では、電子伝票の表示時には、その電子伝票のバージョン番号を端末側に送しないうとしたが、伝票コードE_iと共にバージョン番号を送出して端末に表示させてもよい。すなわち、第2の電子伝票検索手段16には、レコードからバージョンNOF_iを削除する処理を付けないようにする。

【0075】

(7)

特開平 11-134419

11

13

【発明の効果】本発明によれば、電子伝票の内容が送付されてきた印刷シートの内容とどうかを修正回数から自動的に判定して承認側に知らせているので、承認側は印刷シートの内容と電子伝票の内容とが一致しているかどうかを目視でチェックしなくとも、印刷シートの修正回数を入力するだけで、その結果が自動的に分かるのでチェック作業を大幅に短縮できるという効果が得られている。

【0076】さらに、電子伝票に修正があった場合は、修正回数と、修正者と、端末IDと、プログラムIDと、年月日及び時刻とを修正履歴として記憶するので、何らかの不正又は不備事項が後日発見された場合は、その電子伝票の修正回数から何時、誰によって修正されたかを容易にたどることができるという効果が得られている。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施の形態1のオンライン会計システムの概略構成図である。

【図2】実施の形態1のホストコンピュータの概略構成図である。

【図3】電子伝票ファイルの構成を説明する説明図である。

【図4】モニタシートの説明図である。

【図5】バージョンNOの更新を説明するフローチャートである。

【図6】モニタシートの説明図である。

【図7】修正回数の判定を説明するフローチャートであ＊

*る。

【図8】実施の形態2のオンライン会計システムの概略構成図である。

【図9】モニタシートの説明図である。

【図10】実施の形態3の概略構成図である。

【図 1-1】従来の会計システムの概略構成図である。

【符号の説明】

5 a 端末

5 b 端末

10 7 端末

9 ホストコンピュータ

1.1 伝票フォーマットファイル

1.2 社員情報ファイル

1.3 電子伝票ファイル

1.5 偽含子位票作成手段

16 第2の電子伝票検索手段

1.7 宮子伝要録索引部

1.9 營子仁票謄入手段

2.0 第1の電子伝票検索手段

20 2.1 修正判定手段

2.2 伝票番号生成手段

2.3 バージョン番号生成手段

2.4 伝票付与コード添付手段

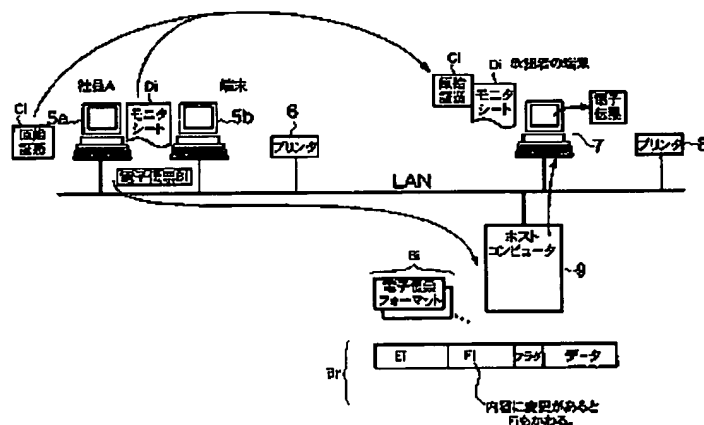
2.6 修正回数管理処理部

28 承認受付処理部

B i 電子伝票フォーマット

C i 原始証據

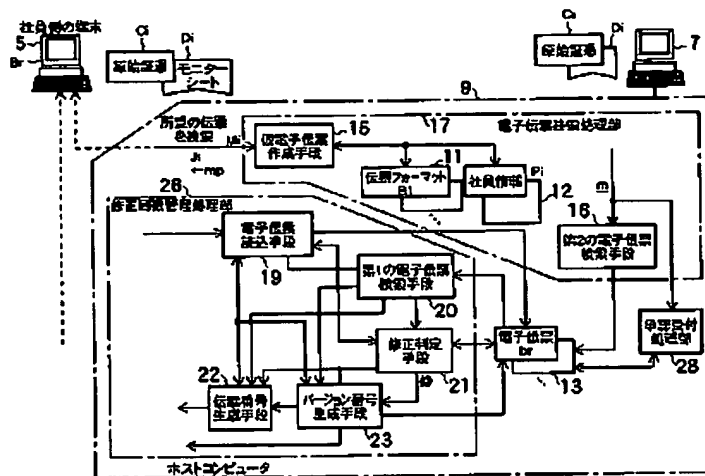
【圖 1】



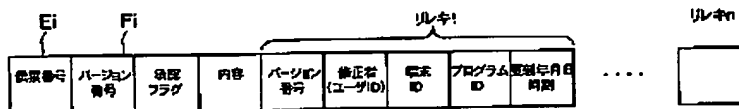
(8)

特開平11-134419

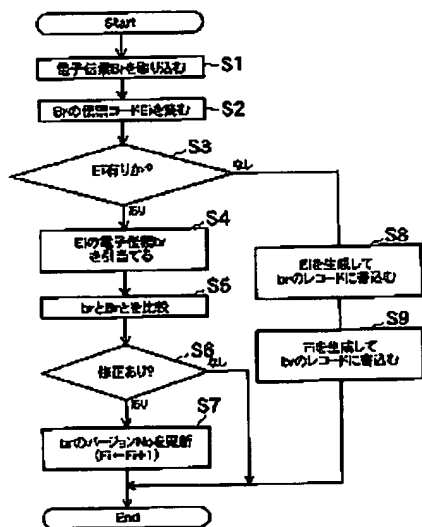
【図2】



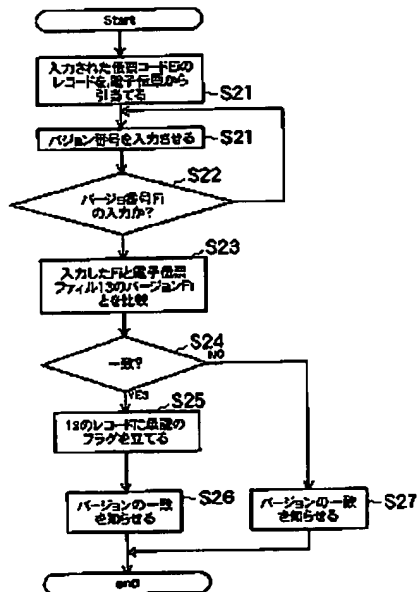
【図3】



【図5】



【図7】

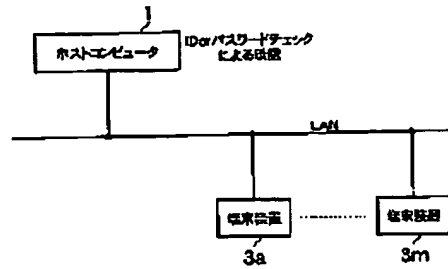


特開平 1 1 - 1 3 4 4 1 9

【圖9】

[illegible]

【圖 11】



(A 2) K00K00 61 (金部) 62 K00000 62 (金部) 63 K00000 (理古) 64 K00K00	造 造		合 造		人力 造	
	金部 62 K00000	合 造 K00000	得	金部 62 K00000	合 造 K00000	造

14-3-K

【圖 1.6】

